

追加資料（速水氏提供）

建設用地の選定に係るコメント(施設)

【コメントの前提条件】

1. いずれの建設候補地も概ね平地であり、一般廃棄物処理施設の建設用地としての要件を満たしていると考えられる。
2. 地域に暮らす住民の理解のもとでの選択・決定が望まれる。
3. 多くの評価要素はあるが、次の要素を抽出してコメントする。
 - － 住民負担
 - － 環境配慮
 - － 地域貢献
4. 定性的なコメント
 - － 数値を伴った定量的なコメントには個別の詳細調査が必要である。

【主なコメント】

1. 住民負担
 - (1) 収集運搬費用
 - ① 廃棄物処理費用の最大の割合(一般的に全体の50%以上)を占める。
 - ② 広域化に伴ってある程度の収集運搬に係る全体経費の増加は避け難い。
 - ③ 一般廃棄物の主要発生源から遠くない方が住民の経済負担が小さい。
 - (2) 土地の造成費用及びアクセス道路
 - ① 「中綱」については、一般廃棄物処理施設へのアクセス道路を鉄道及び鉄道脇の小河川を横断させる必要がある。
 - ・ 道路の傾斜角を考慮するとかなりの距離にわたっての工事が必要となる。
 - ・ 一般廃棄物処理施設敷地内の道路についてもかなりのスペースを要し、場合によっては敷地の拡張が必要となる。
 - ・ 鉄道との近接施工となり、工事上の配慮(工事施工時間の制限、JRへの委託施工等)が必要となる可能性がある。
 - ② 施設規模が40トン/日程度であり、収集運搬車両による影響は他の地方自治体の一般廃棄物処理施設と比較して大きいとは言えないが、極力幹線道路からの距離が短い方が好ましい。この観点から「新行」については、道路整備負担が大きくなる可能性がある。
 - ・ 工事車両、薬品運搬車両等への配慮も必要である。

(3) インフラ整備状況

- ① 水資源が豊富な地域であると考えられ、いずれの候補地も冷却水等の確保には不安はないものと観測される。
- ② 電力供給については電力会社へ確認することが望ましい。

2. 環境配慮

(1) 排ガス拡散

「川上」、「中綱」の候補地については山が候補地間近に迫っているため、煙突からの排ガス拡散が影響を受ける可能性がある。

- (2) 排水は煙道内で蒸発させる無放流方式を採用することによりいずれの候補地においても対応可能と考えられる。
- (3) 悪臭、騒音、振動等については、いずれの候補地においても技術的に問題とはならないと考える。

3. 地域貢献

(1) 災害対策施設としての活用⇒安心感と信頼感の創出

東日本大震災を含め過去の災害において殆ど被害がないか、あるいはあっても極めて軽微であった。

- ① 事業継続と災害対策についての議論の高まり
- ② 施設の性質上飲料水、燃料、工具等の備え
- ③ 災害時における活用の利便性への配慮

(2) 回収エネルギーの利用

- ① 国の交付金の採択条件等を考慮すると回収エネルギーの利用は強く望まれる。
- ② 施設規模により従来技術による発電は困難だが、新技術を用いた発電技術にも今後留意すべき。
- ③ 熱需要のある場所(多くの住民にメリットがある場所)に建設することも検討
 - ・ 熱の供給限界は2km程度であるが、より近い方が有利である。
 - ・ 一般廃棄物処理施設側は熱供給を行うことにより、冷却水、電力使用量の削減等のメリットが得られる。
 - ・ CO₂の削減(低炭素社会の実現)に寄与する。

(3) 還元施設の効果的活用

- ① 多くの住民がメリットを享受出来る場所
- ② 維持管理費に配慮

4. その他

一般廃棄物処理施設を用いての豚舎の臭気対策は、施設規模、排気ダクトの敷設を考慮すると課題が多い。豚舎側でも密閉対策が必要となる。また、一般廃棄物処理施設停止時のバックアップ施設の整備も考慮すると経済的にも効果が見込めないおそれが高い。